

加地邸（葉山）

このコーナーではスクランブル調査隊メンバーが関わったり、探訪した、神奈川県内の歴史的な建物やまちなみを紹介します。

葉山は湘南のなかでも、明るく心地よいところです。逗子駅からバスで15分程の加地邸（三井物産ロンドン支店長加地利夫氏の別宅）は、帝国ホテルを設計したフランク・ロイド・ライトの愛弟子だった遠藤新39歳の頃の作

品です。遠藤の建物は他にもいくつかありますが、加地邸は、家具・照明に至るまでトータルで設計され、それがほとんど全て竣工時のままの姿をとどめているという点で、驚きと称賛に値します。



外観は、重厚な大谷石と、薄く軽やかな屋根が水平を強調し、不思議なコントラストのハーモニーが聞こえてきそうな感じなのです。内部は、スキップフロアや部屋と部屋をつなぐ廊下が、どこをとっても同じ形がなく、たい

へんリズムカルなのです。テラスに面した吹き抜けのリビングが中央にあり、二階には三面ぐるりが窓で、海が臨める部屋があります。庇の出は、かなり苦労したように思えます。一見RCのキャンティレバーのように見える深い庇は、軒裏がルーバーになっていて、さほど部屋が暗くはならないのです。あくまで、プレーリーハウスのように、空を屋根のエッジで切り取り



たかったのでしょうか。

正面のテラスの上は硝子ルーフになっています。棟には換気口もたくさんあり室内環境にも気を配っていたことがうかがえます。

加地邸が建てられた昭和3年ごろは、湘南地域でも数々の素晴らしい邸宅が建てられましたが、近年ひとつ、またひとつと姿を消していくのは寂しい限りでした。

しかし、最近になって、加地邸は新しい主人を迎えました。爽やかな若い実業家のご夫妻です。奥様は、近所の方と、草むしりなどしてらっしゃる、と明るく話されていました。ですから、本当は、旧加地邸なのですが、今回は近隣に親しまれた呼び方をそのまま使いました。加地邸（というニックネームのキュートな建物）が、様々な人に愛されている証拠かもしれません。また、さらに次の世紀も愛されてほしい、と願わずにはいられません。

<概要>

名称：加地邸（別宅）

所在地：三浦郡葉山町

敷地面積：1,129.52㎡

床面積：364.38㎡

建設年：昭和3年（1928）

構造：木造 2階建て（一部地下1階RC造）

屋根：銅板（変形瓦棒葺き+平葺き）

（スクランブル調査隊 内田 美知留）



『ライト』 講演会

横浜支部 風呂迫 泰寛

横浜支部 技術・情報委員会の活動として、10月21日(金)に『フランク・ロイド・ライトから学ぶ』と題して講演会を開催致しました。会員以外の方の出席も多く、60名近くのご参加を頂きました。講師はフランク・ロイド・ライトについて精通されている南迫哲也先生に努めて頂き、ライト建築の魅力や裏話など、興味深い貴重なお話を拝聴することができました。音楽一家に囲まれて育ったライトの生い立ちから、こどもが生まれる度に増築を重ねた自邸、自然と一体となり構造的特徴のある落水荘、美術家からは酷評の多いグッゲンハイム美術館、惜しまれながらも取り壊された帝国ホテルなど、多くの作品をご解説頂き、ライト建築とその思想に触れることができました。



また、東日本大震災の仮設住宅について、南迫先生の取り組みをご紹介いただきました。実際に現地に足を運ばれ、直接被災者の方に接して分かった仮設住宅の現状と問題点をお話いただきました。仮設住宅で今もなお、多くの被災者が生活をされている状況から、住人同士のコミュニティが大切であると知ることができました。この震災の教訓を活かして、避難生活の長期化を想定した、コミュニティを形成できる仮設住宅を標準化することが必要であると感じました。

2020年に義務化される

「余りにも危うい省エネ工法」に対する警鐘

相模原支部 小野 誠

2015年になりますが、私は国が推進する省エネ仕様の実態を知るべく、設計・施工者向けに開催された2つの講習会に参加させていただきました。配布されたテキスト通り忠実に施工した場合、果たしてどんな結果が待ち受けているのか？それを想像しただけで、大変な危機感を覚えてしまいました。なぜなら、その記述が、今から30年程前に北海道の省エネ工法開発チームが、実に何千棟もの住宅の躯体を結露で腐らせてしまい、大きな社会問題にまで発展してしまった納まりと酷似していたからです。そのテキストが、如何なる人物によって編集されたのか？個人名が一切明記されていないのが気になるのですが、北海道のチームは、その大失敗の直後、間髪入れずに、その詳細を事細かな分析結果も含めて正直に公開してくれました。そのお陰で、そのあとに続くチームは、同じ轍を踏むことはなかったと聞き及びます。

少なくとも、テキストの断熱納まりを記す立場の人は勿論、解説担当者にいたる全関係者が、せつかく公開された貴重な失敗談を、よもや知らなかったのでしょうか？私には、とても信じられません。私は、かつて北海道の結露に至った原因の詳細を知る人物から「外気側の断熱材が連続性を保つのは必要最低限の原則だけれど、それ以上に注意しなければならないのが、室内側の防湿層納まり。可能な限り透湿抵抗の高い素材で、タッカー留めだけでは、NG。よっぽど緻密にやらないと、簡単に躯体を腐らせてしまう。」との忠告を受け、その言葉が現在の省エネ規範となりました。その後、問題の「水蒸気」について調べたところ、一般的な見識では、蒸気機関車から勢よく噴き出す白い蒸気を連想してしまいがちですが、実は誤り。白く見える段階は、まだ水滴の形態であり、その直後に肉眼では見えなくなる段階から「水蒸気そのもの」である事が分かりました。そればかりではありません。

水蒸気のサイズは、3.5Å(オングストローム)。通常では滅多に聞かない単位ですが、金属以外のほとんどの物質を簡単に貫通するほど超微細なサイズです。しかも動くスピードは、秒速 340m・・・なんと少し前のジェット戦闘機の約 2 倍に相当する速さ。つまり、理論上の拡散度は、ほぼ瞬間的と言えます。それだけに水蒸気は、神出鬼没！隠れた躯体の何処にも侵入可能な結露の主犯！もし侮れば、必ずや大失敗を引き起こす「極めて危険な存在」と心すべきです。紙面の制約上、これ以上の説明は困難ですが、省エネ法が義務化される以前に「高断熱偏重・防湿層納まり軽視」が招く想定外の法廷紛争に巻き込まれぬよう、配布されたテキストの納め方を鵜呑みにすることなく、「防湿納まりの再検討」を最優先するようお勧めします。

ゴルフ同好会報告

横浜支部 内山 勝麗

第 1 回建築士会ゴルフ同好会によるコンペが昨年 10 月 20 日(木) 東名厚木 CC にて 8 組 32 名の参加により開催されました。優勝は及川氏(会員外)、準優勝は水田氏(湘南支部)、三位は岩沢氏(会員外)でした。また飛び賞、NP、DC、参加賞など多く賞品と和やかなパーティーで終わることが出来ました。

パーティーでは同好会の会長 元建築士会会長の藤田氏、幹事として横浜支部の内山、稲毛氏、湘南支部の水田氏、川崎支部の三浦氏他が紹介され、内山より、『今後毎年継続して開催しますので是非会員の皆さんの参加を期待しています』との発言がありました。建築士会から月初めに発行される印刷物の掲示板(8、9月号)のチェックをお願いします



会員さろん 投稿募集のお知らせ

建築士会会員の方々に、「《談話室》会員さろん」への投稿募集のお知らせです。

情報広報委員会・SALON 編集部では、会員のみなさまにご愛読いただいている機関誌 SALON を、更に会員に身近な広報物としていくことを目指して、編集企画の刷新を進めています。

その一環として、これまで編集部から任意に執筆をお願いしていた「《談話室》会員さろん」のスペースを拡充することにいたします。

会員のみなさんが日頃実践している地域への貢献活動やさまざまな試み、他県の建築士会や活動団体との交流などを、建築士会会員のみなさんに広く広報してまいります。

「《談話室》会員さろん」にご投稿いただく際には、会員番号及び氏名、文字数 400 字～600 字程度(WORD など)、写真(ご自分の顔写真でも結構です)を添付する場合には 1 枚とし、下記の情報広報委員会のアドレスまでご投稿くださるようお願いいたします。SALON 編集部では、会員のみなさんの積極的で活発なご投稿を期待しています。

なお、投稿文の内容については以下の事項に該当するものは、原則として掲載をお断りすることをご理解いただき、ご投稿をお願いいたします。

【注記】

- ① 公序良俗に反する内容のもの。
- ② 特定の個人(法人を含む)、政党、宗教団体等と、それらの特定の活動を支持、宣伝又は非難・誹謗する内容のもの。
- ③ 個人(法人を含む)の利益・収益等に直接関係し、又はそれらへの協力を働きかける内容のもの。
- ④ その他、本会の刊行物規程(*)等に照らして投稿記事の内容が機関誌 SALON への掲載にふさわしくないと編集部が判断するもの、等。

(*) 一般社団法人神奈川県建築士会刊行物規程

《情報広報委員会》

Joho@kanagawa-kentikusikai.com

支部・委員会活動報告

教育講習委員会

基礎ぐい工事問題の再発防止に向けて

副委員長 山本 秀明

平成 27 年度に発覚した分譲マンションにおける基礎ぐい工事の問題を受け、国土交通省は「基礎ぐい工事問題に関する対策委員会」を設置しました。同委員会では「適切な施工管理を補完するための工事監理ガイドラインの策定」及び「地盤の特性に応じた設計方法等に関する周知徹底」を、再発防止策の一つとして提言されました。

このことから、教育講習委員会では、平成 28 年 12 月 12 日に設計者、工事監理者、施工者の建築士等を対象とした「杭基礎の設計・施工の要点と『基礎ぐい工事監理ガイドライン』の解説」講習会を開催しました。講習会は、平成 28 年 7 月 1 日に公益社団法人日本建築士連合会が建築会館ホール（東京）で開催された講習会を録画した DVD で行い、約 30 名の方が受講されました。

講習会の内容は、①杭基礎の要求性能と設計施工、

②地盤調査の活用と杭基礎の設計要点、③既製コンクリート杭の施工管理指針（日建連版）、そして④国土交通省が作成した「基礎ぐい工事監理ガイドライン」等について、専門の講師が解説しました。受講者は、基礎ぐい工事問題の再発防止に向けて、熱心に受講されていました。

当委員会では、目視で確認することが難しい基礎ぐいについて、今回の講習会の開催が、より適切な設計・工事監理・施工に繋がることを期待しています。



長田副会長による開催挨拶

平成 29 年 新春賀詞交歓会報告

平成 29 年 1 月 30 日（月）、昨年に同様本会単独開催での「平成 29 年 新春賀詞交歓会」がみなとみらい「ナビオス横浜」で開催されました。

本年も昨年の 159 名の参加と匹敵する 147 名の皆様にご参加いただきました。

司会者は、本会常任理事の雨森隆子氏、有泉ひとみ氏、玉野直美氏の女性 3 名で、今年も祝宴に華やかさを加えました。

開会にあたり金子修司会長より新年の挨拶、続いて来賓を代表して、国土交通省関東地方整備局横浜営繕事務所長 岩野多恵様、神奈川県県土整備局住宅部長 庄司博之様、横浜市建築局長 坂和伸賢様よりご祝辞を頂いた後、来賓の方々のご紹介が行われました。

（一社）神奈川県建築士事務所協会会長 小林忠志様の乾杯のご発声により賑やかに賀詞交歓会が始まりました。歓談の中、司会より黒岩祐治神奈川県知事より頂戴した祝電が披露されました。

昨年から行われた 20 年以上本会会員の方（満 70 歳の方）への長寿会員表彰では、受賞者 30 名をご紹

介し、出席された 5 名の方へ金子会長より感謝状と記念品が授与されました。

続いて、本年度建築士に合格され新規入会予定の方のご紹介と建築士会バッチ授与が行われました。

その後も宴は大いに盛り上がり、（公社）日本建築家協会関東甲信越支部神奈川地域会監査 中山和俊様による一本締めで、大盛況の内に閉幕しました。

新春賀詞交歓会では、日ごろ各行事に参加されている方はもちろん、久しぶりに参加された方や本会行事に初参加の方にもお越しいただき、会員の皆様の更なる交流を深めていただけたのではないかと思います。

今年参加されなかった皆様も、来年は、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。



（事務局）

長寿会員表彰